

## ポリオワクチンに関する Q&A

### Q1:不活化ワクチンと生ワクチンって、何が違うの？

不活化ワクチンは、ウイルスを殺して（＝不活化）バラバラにし、免疫をつけるのに必要な部分のみを集めたものです。免疫力の低下している人に接種しても、この不活化ワクチンから感染して病気を引き起こす危険性はありません。ポリオ（急性灰白髄炎・小児麻痺）の場合なら、不活化ポリオワクチンが原因でポリオウイルスに感染することはないということです。

これに対し、生ワクチンは、病気を起こさない程度に病原性を弱めてありますが、本物の生きたポリオウイルスがワクチンの中に入っているということです。健常者でも、一定の確率でワクチン関連麻痺性ポリオ（Vaccine-associated Paralytic Polio; VAPP）が起きます。免疫力が低下している人、たとえば重症複合型免疫不全症の子どもや、抗がん剤治療後の人、あるいは免疫抑制療法中の人の場合、ポリオ発病のリスクが高まります。

### Q2:不活化ワクチンにはどんなメリットがあるの？

不活化ポリオワクチン（IPV）では、ワクチン関連麻痺性ポリオ（VAPP）の発生がありません。接種を受けた子どもはもちろん、接触した周囲の人（保護者等）もすべてポリオを起こすことはありません。ワクチン接種後の便も、普段と同じように処理すれば良いですし、ポリオに対する免疫が低いとされる 1975 年～1977 年（昭和 50 年～52 年）生まれで、現在、お子さんのポリオワクチン接種を考えている場合でも安心です。ただし、周囲のお子さんたちがポリオ生ワクチン（OPV）を接種している場合、やはり感染の可能性を否定することはできません（出典：国立感染症研究所 感染症情報センター）。

OPV のデメリットは、接種した本人（子ども）がポリオを発病する可能性があること、そして発病した場合にその子どもが通っている保育園等や、家庭内においてもポリオワクチン未接種の子どもに感染し、ポリオを発病させる可能性があることです。実際、日本でも、ワクチン未接種の子供がポリオを発病したケースが報告されています。

### Q3:ポリオ生ワクチンを 1 度受けた後でも不活化ワクチンは接種できますか？

不活化ポリオワクチン（IPV）接種は可能です。ポリオ生ワクチン（OPV）を 1 回接種した後に IPV を何回接種すべきか、臨床試験がされていないためわかりません。米国 CDC Pinkbook には、IPV3 回の接種で 99%以上の方で免疫が得られるとの記載があります。また、多くの国ではポリオワクチンは 4 回接種するという事実から鑑みて、IPV を 3 回接種するとよいと考えられます。接種間隔は、OPV 接種後 1 カ月以上あけて 2 回目を接種し、その 2 カ月後以降に 3 回目、4 歳～6 歳で 4 回目が良いと思います。明確なルールがありませんので、接種を受ける医師とよく相談して、理解いただいたうえで接種をお受けになる

と良いでしょう。

春と秋の OPV 集団接種の時期には、VAPP のリスクが高まるため、それまでに OPV を含めた 3 回目までの接種を済ませておくことが望ましいです。

#### Q4:不活化ワクチンの副作用が心配です。大丈夫ですか？

有害事象と、副作用を分けて考える必要があります。有害事象は、ワクチン接種後に起きたすべての望ましくない事象をさします。ワクチン接種後に雪道で滑って転んで怪我をしても、有害事象です。その有害事象の中の一部は、ワクチンによって引き起こされた反応（副作用）です。接種部位の赤みや腫れなどがこれにあたります。

IMOVAX POLIO に添付されている説明書には、副作用について以下のように記載されています。

[1] よく見られる：接種箇所の疼痛、紅斑、腫れ。一過性、軽度の発熱

[2] 0.01%未満の頻度

(1)接種局所：1日～2日以上つづく接種箇所の浮腫・リンパ節腫脹

(2)アレルギー反応：アナフィラキシー反応

(3)数日以内に起こる一過性の軽度の関節痛、筋肉痛

(4)2週間以内に起こるけいれん、頭痛、一過性の麻痺

(5)接種数時間以内もしくは数日以内に起き、急速に改善する興奮、不眠、不機嫌

(6)大きく広がった紅斑

米国では、年間約 440 万人が出生し、IPV 接種率は約 92%です。OPV が廃止されて以降の 2000 年～2010 年の IPV 接種人数は約 3700 万人にのぼります。これまで、無過失補償制度である VICP(ワクチン副作用被害補償制度)で IPV 接種後に補償がなされたのは 1988 年～2010 年までの 22 年間で 7 件です。かりに、7 件が 2000 年～2010 年の間に発生したとして、確率は 0.19/100 万人です。この数値を日本に当てはめると、全員が IPV を接種しても、5 年に 1 人程度しか補償対象となる副作用被害は発生しないと推定されます。

日本では、OPV 接種後に予防接種健康被害の認定を受け、医療手当や障害年金、死亡一時金を受けた方が累積で 138 人にのぼります（出典：厚生労働省ホームページ）。毎年、4 人から 6 人以上の方が、VAPP を発病し、新たに認定されています。

引用：日経トレンディネット 2011/1/24 記事

「問い合わせ急増！ 不活化ポリオワクチンのなぜ、いつ、どれくらい？」

<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/column/20110121/1034264/?ST=life&P=1>

文責 大和クリニック 院長 浜野 淳